



第5回東海地区CSI事業報告会  
次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業  
学術機関リポジトリの今後  
「CSI事業の今後の展開」

平成19年11月30日(金)

安達 淳  
国立情報学研究所学術基盤推進部長

第5回東海地区CSI 事業報告会 (平成19年11月30日)

National Institute of Informatics **NII**

## 機関リポジトリ委託事業(平成17~19年度)の概要

### □ 平成17年度

- 機関リポジトリの構築・運用に関するこれまでの実績及び全学的な計画の有無等の調査に基づき19大学を選出

### □ 平成18年度~19年度

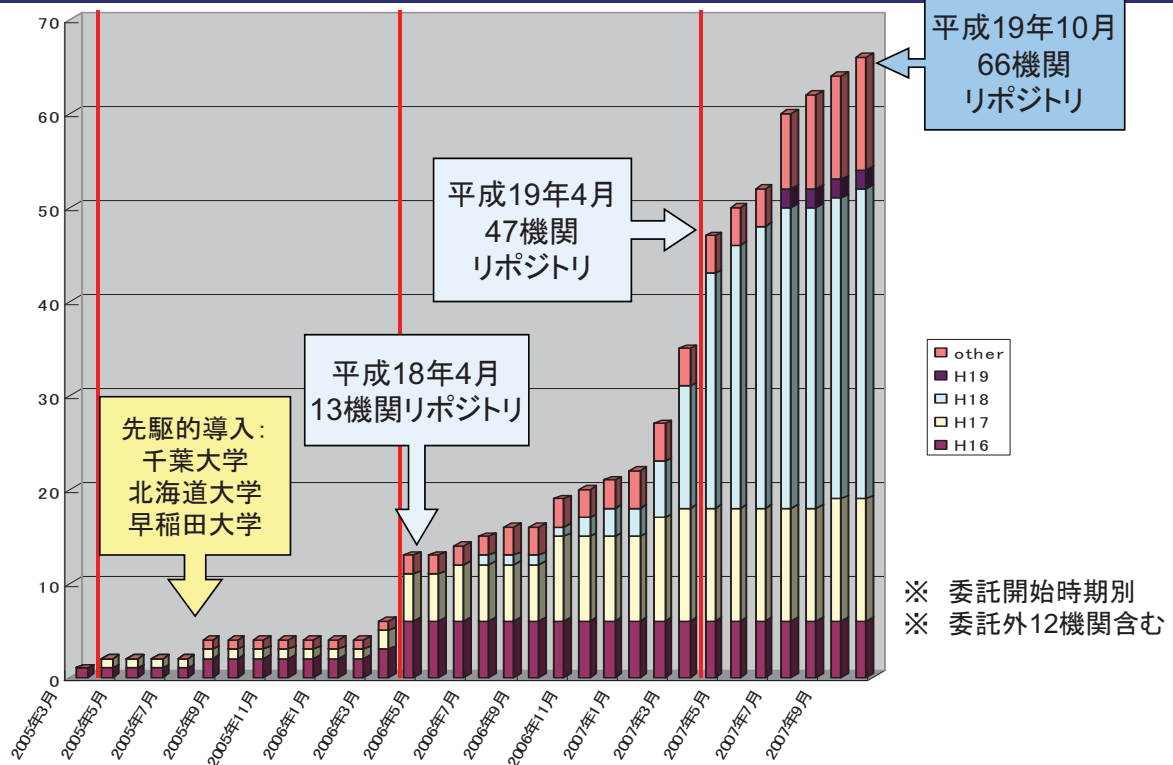
- 2つの目標
  - ・ 機関リポジトリの全国的な展開 / 先端的な研究開発
- 2つの事業領域
  - ・ 領域1(機関リポジトリの構築と運用) / 領域2(先端的な研究・開発)
- 透明性と競争性を確保した選定プロセス
  - ・ 公募の採用

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
事業領域	パイロット・プロジェクト	全国展開／研究開発	導入拡大／研究開発
領域1(機関リポジトリ構築・運用事業)	19機関	57機関	70機関
領域2(先端的な研究開発事業)		22プロジェクト	14プロジェクト

第5回東海地区CSI 事業報告会 (平成19年11月30日)

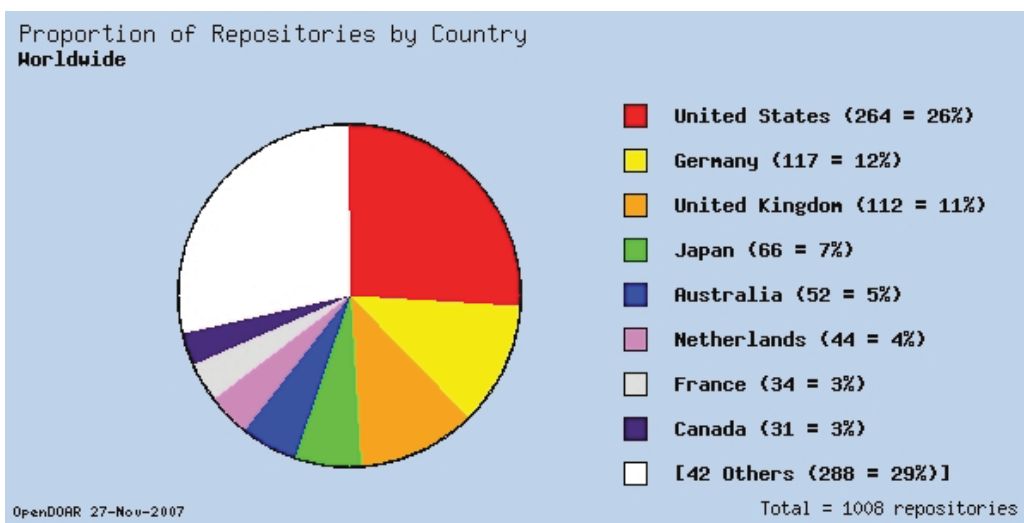
National Institute of Informatics **NII**

## 機関リポジトリ公開数の伸び



## 機関リポジトリ: 世界での位置づけ

- 世界で構築されている機関リポジトリ: 1008
- 日本は66機関が登録済 → 世界第4位に位置している

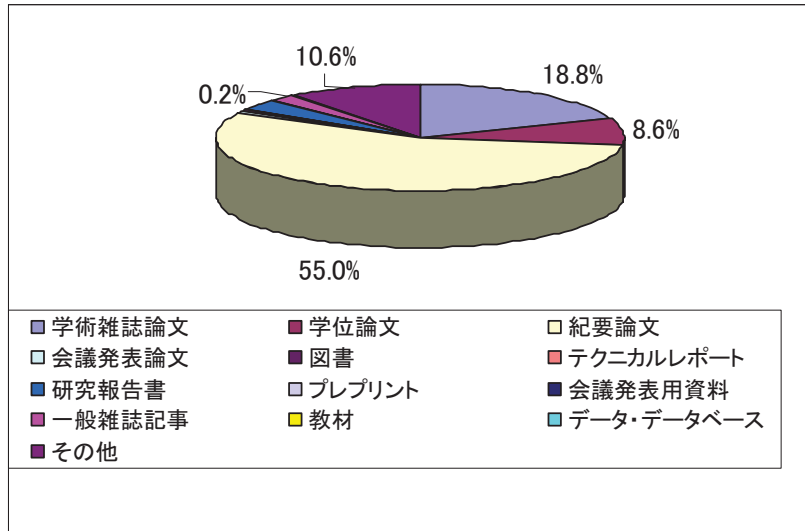


- Open DOAR: Directory of Open Access Repositories

<http://www.opendoar.org/> (参照: 2007/11/27)

# 機関リポジトリのコンテンツ収集状況

## 資料種別ごとの件数



2007年11月21日時点  
機関数 45機関  
総コンテンツ数 189,912件

学術雑誌論文	35,656
学位論文	16,295
紀要論文	104,480
会議発表論文	1,630
図書	930
テクニカルレポート	416
研究報告書	5,540
プレプリント	45
会議発表用資料	445
一般雑誌記事	3,711
教材	158
データ・データベース	400
その他	20,206
合計	189,912

□ NII提供機関リポジトリポータルJuNii+ <http://juniplus.csc.nii.ac.jp/>

4

## 委託事業の効果

### □ 委託事業（領域1）による直接的効果

- 機関リポジトリの数の増加・コンテンツ増加

### □ 平成18年度領域1の優良事例：8事例（11大学） （代表例）

#### - 北海道大学

- 学術雑誌論文の登録数が多い
- 研究者が学術雑誌論文を機関リポジトリに登録するインセンティブを高める工夫
  - 利用統計（ダウンロード数）を利用者にフィードバック
  - カレントな論文について毎週メールで依頼
    - 文献獲得率：
      - » 過去2ヶ月分の依頼の場合：10%だった
      - » 過去1週間分を毎週依頼の場合：50%に向上した

5

## 委託事業の効果 2

### □平成18年度領域1の優良事例:8事例(11大学) (続き)

#### — 信州大学

- 業績DBと連携、ソフトウェアを無料公開(領域1の範囲で実現)

#### — 千葉大学

- 特徴的なコンテンツ
  - サイエンス・データ(衛星画像データとの連携)
  - オーバーレイ・ジャーナル「千葉医学」「公共研究」
- 機関リポジトリのコンテンツが増えることにより、ILLによる文献複写依頼を謝絶できるケースが出てきた

#### — 広島県大学図書館共同リポジトリ

- 地域の国公立大学10機関が共同でリポジトリ構築

## 北海道大学(HUSCAP)

北海道大学学術成果コレクション  
**HUSCAP**  
Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers  
Copyright(c) 2005 Hokkaido University Library, All Rights Reserved.

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers >

English Japanese  
表示対象: 全文献

HUSCAPへようこそ  
検索  
詳細検索  
ホーム  
一覧  
研究科等  
タイトル  
著者  
キーワード  
資料種別  
日付  
高頻度閲覧文献  
学内の方へ  
ツール登録利用者  
パスワード変更

北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP: Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers)は、大学の研究者や大学院生等が著した学術論文、学会発表資料、教育資料等を保存・公開するものです。

本コレクションについて (Japanese)

※本コレクションに収録された学術論文の多くは専門学術誌等に発表されたもので、一部の論文については、著作権上の都合により、著者自筆原稿ファイル(画面上、「author version」と記しています。)を収録しています。著者自筆原稿ファイルは、ピアレビューの完了し学術的内容の確定した段階のもので、実際の誌面とはレイアウトの相違や、字句校正レベルの異同があることがありますのであらかじめご了承ください。

トピック

- 本コレクションの収録文献数が20,000編を超えました。(平成19年10月15日)
- 本コレクションの閲覧数が100万回を超えました。(平成19年7月12日)
- 本コレクションの収録文献数が10,000編を超えました。(平成18年11月15日)

今後ともコンテンツの公開に努めてまいります。よろしくお願いたします。

検索:  検索  
表示対象の指定状態にかかわらず、全ての言語の文献が検索されます。

Scholarly Journals  
Published by Hokkaido University

Theses  
granted by Hokkaido University

HUSCAPレター  
(in Japanese only)

No. 6 (Apr. 2007)  
拝見します。「初めての論文」:  
第3回 佐伯 浩 北海道大学理  
事・副学長(現総長)  
「開水路湾曲部の二次流に關  
する研究」  
文献本(例)ま→こちらです

No. 5 (Feb. 2007)  
拝見します。「初めての論文」:  
第2回 有賀早苗 大学院農学研  
究院・生命科学院教授/女性研  
究者支援室長  
「Studies on the Freeze  
Denaturation of Squid  
Actomyosin」  
文献本(例)ま→こちらです

No. 4 (Jan. 2007)  
拝見します。「初めての論文」:  
第1回 中村曉男 北海道大学総

# 信州大学(SOAR)

**SOARとは**

SOAR(信州大学学術情報オンラインシステム)とは、信州大学の研究者の皆さまの情報発信をサポートするための総合的なシステムです。

研究者総覧(図左)と機関リポジトリ(図中央上)との連携により、信州大学の研究者の皆さまの、視認性向上と負担軽減を目指します。

**SOAR** 信州大学学術情報オンラインシステム  
Shinshu University Online System of General Academic Resources (SOAR)

"SOAR" has just soared into the world from Shinshu Univ.

市民・産業界・官公庁/研究者・学生

Google・Yahoo

信州大学研究者総覧  
Researcher Directory  
・信州大学研究者のプロフィール、研究教育諸活動を広く公開するデータベース  
・信州大学はこのシステムを世界標準となっているXMLを採用して開発  
メディアフュージョン  
ネイティブXMLデータベース  
(EATerra XML Storage Server)

信州大学機関リポジトリ  
Institutional Repository  
信州大学研究者の研究成果(フルテキスト)を収録・無料で提供  
Web of Scienceへのリンクバック

電子ジャーナル  
Electronic Journals  
Nature/Science/Elsevier/Wiley/Springer/Blackwell/etc.  
Web of Scienceへのリンクバック

Web of Science  
・トムソンサイエンティフィック社が提供する学術文献データベース  
・世界の主要大学が利用

検索  
高度な検索

Go!

# 千葉大学(CURATOR)

CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY  
for Access to Outcomes from Research

「千葉大学学術成果リポジトリ」は、千葉大学内で生産された電子的な知的生産物(学術論文、学位論文、プレプリント、統計・実験データ、教材、ソフトウェアなどの学術情報)を蓄積、保存し、学内外に公開するためのインターネット上の発信拠点です。

MENU

NEWS

検索

CURATOR 検索窓

Scirus 検索

Go!

# 広島県大学図書館共同リポジトリ(HARP)

HARP DSpace Softwareについて

リポジトリ検索

DSpace at HARP >

広島県大学共同リポジトリ実験サイト

2008年4月正式運用開始予定!

私立大学図書館協会西地区部会研究会(2007.9.28)報告プレゼン資料

検索

検索語を入力して、検索ボタンをクリックしてください。

このリポジトリのコミュニティ

コレクションを閲覧するコミュニティを選択してください。

安田女子大学  
尾道大学  
広島修道大学  
広島国際大学  
広島大学  
広島女学院大学  
広島工業大学  
広島市立大学  
広島経済大学  
日本赤十字広島看護大学

Go!

## 領域2のコンセプト(平成18年度～19年度)

### □ 先駆的な研究開発事業

#### － 目的

- ・ 機関リポジトリ構築・運用に係る技術的, 制度的諸問題に実証的に取り組み, 問題解決のため具体的な成果を得ること。

### □ 公募時のプロジェクトの例示

- － 構築技術
- － 発信強化のための技術
- － 制度的課題
- － 機関リポジトリの評価基準作成
- － 学内連携
- － 学外連携

# 平成19年度 領域2プロジェクト一覧

平成18年度22プロジェクト→平成19年度14プロジェクトに集約

テーマ	主担当	分担大学
情報共有関係		
機関リポジトリコミュニティの活性化●	北海道大学	千葉大学, 金沢大学
国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト●	筑波大学	千葉大学, 神戸大学
大テーマ「多様な情報資源の統合・提示」プロジェクト(代表:九州大学)		
機関内学術情報資源の統合検索●	九州大学	
多様なメタデータの[相互]交換	名古屋大学	
機関リポジトリを中心とした学習・教育, 研究環境向上のための統合的情報検索システムの開発	三重大学	
研究者一情報の共進化型コミュニティ創出支援	千葉大学	九州大学
システム間連結のための著者名(典拠)ディレクトリ開発	名古屋大学	
主題マップによるナビゲーション	北海道大学	
システム開発関係		
リンク・リソルバを通じた機関資源へのアクセス●	北海道大学	筑波大学, 千葉大学, 名古屋大学, 九州大学
業績DB・IR連携プロジェクト	金沢大学	九州大学, 早稲田大学
Tokyo Tech Research Repository(T2R2)システム開発	東京工業大学	
電子出版システム(編集査読システム)の開発	早稲田大学	広島大学, 長崎大学
XooNlps Library モジュールの開発●	慶應義塾大学	
評価関係		
機関リポジトリの評価システム●	千葉大学	三重大学

● :平成18年度優良事例

第5回東海地区CSI 事業報告会 (平成19年11月30日)

National Institute of Informatics

12



## 委託事業の効果(領域2)

- 委託事業(領域2)による間接的効果・波及効果
- 領域2の優良事例:6プロジェクト(名古屋大学を含む9大学)

- 機関リポジトリコミュニティ  
(DRF: Digital Repository Federation)
  - 情報共有・交換の場を提供
    - Wiki, MLの運営
    - ワークショップ, シンポジウム, 研修等の企画実施
  - 自力構築機関が増加
- 学協会著作権ポリシーデータベース  
(SCPJ: Society Copyright Policy in Japan)
  - 学会への働きかけ
    - 登録件数増加(2007年1月:194件→7月:936件)
  - 実務上の困難を共同で解決
    - アクセス数増加(2007年4月:2,000件→7月:7,000件)

第5回東海地区CSI 事業報告会 (平成19年11月30日)

National Institute of Informatics

13



# 機関リポジトリコミュニティ(DRF)



## Digital Repository Federation

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Digital%20Repository%20Federation

[ Front page ] [ Edit | Unfreeze | Diff | Backup | Upload | Reload ] [ New | List of pages | Search | Recent changes | Help ]

- 参加機関一覧
- 機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト
- DRF1
- DRF2
- IR設立・運営に関する参考文献
- 業務のための関連資料
- トピックス
- 機関リポジトリに関する国内のメディア報道一覧
- システム・ツール関連情報

### Digital Repository Federation <sup>+</sup>

**New!** 第3回DRFワークショップ「日本の機関リポジトリの今2007」の参加受付を開始しました。

今年度の次世代コンテンツ基盤共同構築事業の領域2では、北海道大学の「機関リポジトリの活性化」が採択されています。これには千葉大、金沢大が連携大学として参加します。

この「活性化」のプログラムでは、参加大学が相互に情報を交換・共有し、各大学でのリポジトリの導入・運営に貢献しあうとともに、プロジェクト型のコンソーシアム活動を通じて、リポジトリの継続のための相互扶助的な活動方式やゆるい連携組織のあり方を模索することを目指しています。また、こうした活動により、CSI事業終了後もリポジトリを維持・拡大していくための「連携」のモデルを模索したいと考えています。

また、この3大学による「連携」活動に、Digital Repository Federation(略称DRF=ダーフ)という名称を与え、コンソーシアム的な活動に「連携」の弾みを与えたいと考えています。



**recent(8)**

- 2007-10-19
  - DRF活動趣意書
  - H19年度 DRF新規参加募集
  - 参加機関一覧

**公開メーリングリスト <sup>+</sup>**

- 機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト


**これからの 催し <sup>+</sup>**

- DRF3 第3回DRFワークショップ「日本の機関リポジトリの今2007」(平成19年11月9日(金)図書館総合展) **参加募集中**
- DRFIC2008 DRF International Conference 2008 -- Open Access and Institutional Repository in Asia-Pacific (30th and 31st January, 2008, Osaka, JAPAN)

[Go!](#)

14

# 学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ)



## Society Copyright Policies in Japan 学協会著作権ポリシーデータベース

学協会の著作権ポリシーを調べる

学協会名から検索

(学協会名の一部から検索できます。and,or検索はできません)



雑誌名から検索

(雑誌名、ISSN、ヨミの一部から検索できます。and,or検索はできません)



ポリシーごとの一覧表示

- Green … 査読前・査読後のどちらでもよい
- Blue … 査読後の論文のみ認める
- Yellow … 査読前の論文のみ認める
- White … リポジトリへの保存を認めてほしい
- Gray … 検討中・調査中・その他

[すべて表示](#)

現在、684件のデータが登録されています。そのうちGreenは30件、Blueは152件です。

[関連リンク](#)

- NII-ELSコンテンツの機関リポジトリへの提供許諾条件一覧… CiNii

SCPJについて

日本国内の学協会の機関リポジトリに対する論文掲載許諾状況が調べられます。

[>詳しい情報](#)

著作権ポリシーとは

論文の著作権  
著者版と出版社版  
データベース(びん)学協会について

質問用フォーマット: MicrosoftWord版 / PDF版

Q&A

たたいま準備中です

事業委託大学

筑波大学附属図書館  
千葉大学附属図書館  
神戸大学附属図書館

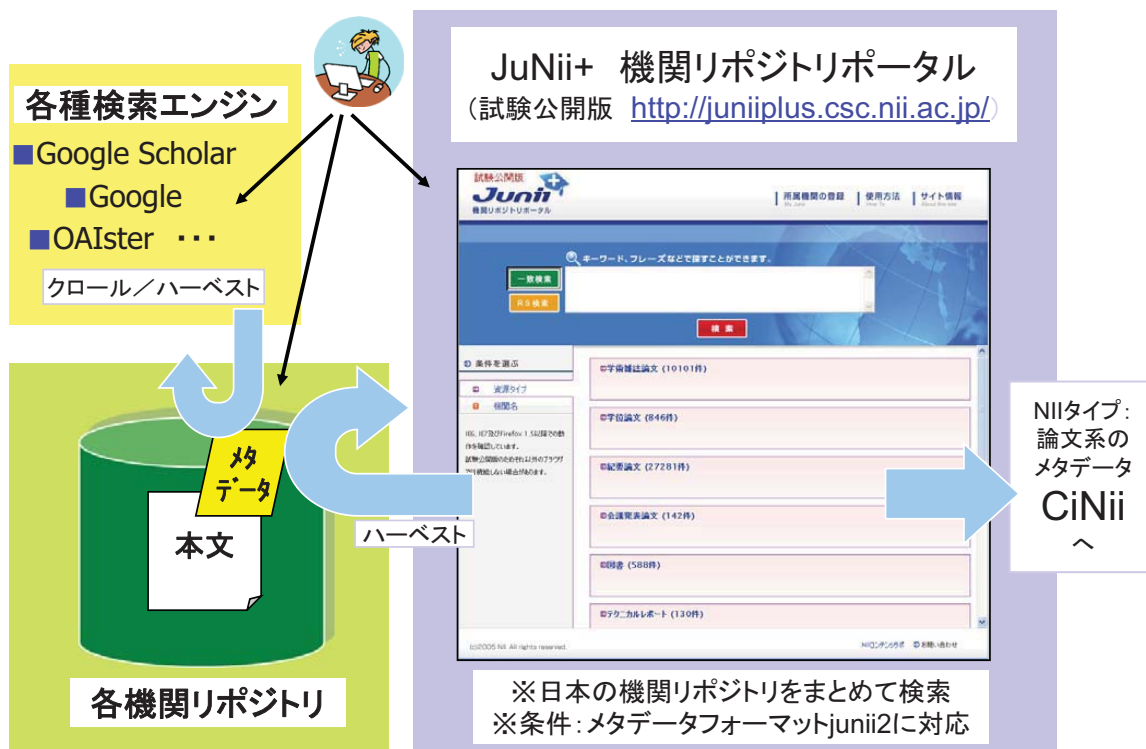
Last updated: 2007/10/11

[Go!](#)

15



# システム連携策：機関リポジトリポータル



## JuNii+の活用事例（宮崎大学）-1

### □ OPACとJuNii+のマッシュアップ

#### － 目的：

- 機関リポジトリに登録する学術コンテンツを収集する上で、教員の機関リポジトリ認知度向上が必要。
- 利便性を実感してもらい、機関リポジトリをPRするため。

#### － 方法：

- OPACの書誌詳細表示画面にAjaxを利用してJuNii+の検索結果を追加表示。
- OPACの改造は必要としないため、比較的容易に実現可能。

※ JuNii+の検索結果はXMLで出力されるため、JuNii+からのレスポンスをJavaScript等で処理することが可能。

※ AjaxはJavaScriptを用いて必要に応じてサーバからデータを取得し、ブラウザの内容を変更する手法。

参考文献：寸田五郎，AjaxによるOPAC機能拡張の試み。

九州地区国立大学図書館協議会誌，50。（2008年2月発行予定）

## JuNii+の活用事例(宮崎大学)-2

http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp:8080/

資料検索(標準)

資料検索(詳細)

ベストリーダー

新着案内

マニュアル

多言語表示について

UTF-8(多言語)へ

English

OPAC終了

オンラインサービス(学内限定)

利用問い合わせ

リクエスト

文献複写依頼

図書貸借依頼

図書購入依頼システム

館内図(本館)

館内図(医学分館)

### 宮崎大学附属図書館蔵書検索システム (OPAC)

+++図書館からのお知らせ+++

- 宮崎大学学術情報ポータル 一般公開開始
- 貸出確認、複写・貸借依頼、リクエスト等ができる「オンラインサービス」について
- 各図書館への交通案内

#### 資料検索(標準)

検索例: [図書](#) [和雑誌](#) [洋雑誌](#) [日本語論文](#) [外国語論文](#)

ブックマーク: [参照](#) [クリア](#)

Webcatを検索する

ファイル種別:  全資料  和図書  洋図書  和雑誌  洋雑誌

タイトル:  ← 検索例: イチゴ

著者名:

出版者:

キーワード:

出版年(図書のみ):

ISBN:  ISSN:

ソートキー:  ソート順:

[Go!](#)

## JuNii+の活用事例(宮崎大学)-3

資料検索(標準)

資料検索(詳細)

ベストリーダー

新着案内

マニュアル

多言語表示について

UTF-8(多言語)へ

English

OPAC終了

オンラインサービス(学内限定)

利用問い合わせ

リクエスト

文献複写依頼

図書貸借依頼

図書購入依頼システム

館内図(本館)

館内図(医学分館)

### 書誌一覧(87件)

件数が多い場合は表示までに時間がかかります

[検索条件]

検索キーに登録番号、資料ID、請求記号が含まれているときは保存できません。

[絞込み]

検索結果を絞り込むには、条件を指定して絞込みボタンを押してください。

タイトル:

著者名:

出版者:

出版年:  配置場所:

一覧表示ページ: [1](#) [2](#)

ブックマーク:

No. 書誌事項

1. イチゴ: 基礎生理と応用技術 / 農文協編. -- 改訂版. -- 農山漁村文化協会, 1983.5. -- (野菜全書 / 農文協編).
2. イチゴ・ネキ類・他. -- 農山漁村文化協会, 1987.8. -- (原色野菜病害虫百科: 診断と防除 / 農文協編: 3).

一覧から選択

# JuNii+の活用事例(宮崎大学)-4

Webcat
検索履歴
検索結果

ダウンロード

一覧件数が多い場合は表示までに時間がかかります

ブックマーク: [追加](#) [参照](#) [クリア](#)

和図書<TW00000254>  
**標題および責任表示**  
 版事項  
 出版・頒布事項  
 形態事項  
 書誌構造リンク  
 その他の標題  
 NCID  
 本文言語コード  
 著者標目リンク

イチゴ: 基礎生理と応用技術 / 農文協編|イチゴ: キン セイリト オウヨウ ギジュツ 改訂版  
 東京: 農山漁村文化協会, 1983.5  
 iii, 828p. 図版; 27cm  
[野菜全書 / 農文協編|ヤサイ ゼンショ<TW01019485>/a](#)  
 ST-イチゴ: 基礎生理・作型・品種・精農家の栽培技術|イチゴ: キン セイリ サクガタヒンシュ セイノウカン ソバイ ギジュツ  
 BN 3849241  
 日本語  
[農山漁村文化協会|ノウ サンギョソンプンカ キョウカイ<AU00007109>](#)

書誌情報を抽出し、JuNii+を検索

所蔵一覧(2件)

巻号:  年月次:

配置場所:  [巻号を絞る込む](#)

No.	巻号	所蔵館	配置場所	資料ID	請求記号
1.		本館	1F開架	0004166467	626.29/N1/2A
2.		本館	1F開架	0001745142	626.29/N1/2

関連する学術コンテンツリンクを表示

関連する学術成果

機関リポジトリを通じて、論文等の本文を読むことができます。

- イチゴ養液栽培の収益性 / 門間 要吉, モンマ ヨウキチ, MONMA, Yokichi 鹿野 征シケイ, セイジ KEINO, Seiji 小林 康平 コバヤシ コウヘイ KOBAYASHI Kohei
- 特産地農業に関する研究: IV 関東におけるイチゴ生産の実態と生産地形成に関する経営的考察 / 中島 忠重 ナカジマ, タダシゲ NAKAJIMA, Tadashiige
- 緑化樹木の生物季節に関する研究 / 中島 敦司 Nakashima, Atsushi
- イチゴ果実腐敗の生成する宿主特異的毒素 / 山本 幹博
- イチゴ収穫ロボットの超音波センサに関する基礎研究 / 崔 永杰 小林 太一 永田 雅輝 CUI Yongjie KOBAYASHI Taichi NAGATA, Masateru コバヤシ, タイチ ナガタ, マサテル
- 新潟におけるハウス促成栽培イチゴの炭酸ガス施肥効果 / 高橋 能彦 佐藤 巧 伊部 歩 柴崎 則久 野水 幸一 伊藤 道秋
- 寒冷地におけるイチゴ苗の取扱いが生育・収量に及ぼす影響 / 沢田 英吉 田村 勉
- 高設栽培イチゴの生産性向上に関する研究 / 遠藤 昌伸

# JuNii+の活用事例(宮崎大学)-5

**宮崎大学学術情報リポジトリ**

リポジトリ検索

詳細検索

ホーム

ブラウズ

- カテゴリー
- コレクション
- タイトル
- 著者
- キーワード/分類
- 掲載誌
- 日付
- マイリポジトリ
- 登録利用
- 宮崎大学学術情報リポジトリについて

宮崎大学学術情報リポジトリ >  
 40 農学部(農学研究科) >  
 40B001 宮崎大学農学部研究報告 >

このアイテムのファイル:

ファイル	記述	サイズ	フォーマット
KJ00004192556.pdf		1551Kb	Adobe PDF

[見る/開く](#)

**本文へ**

タイトル: イチゴ収穫ロボットの超音波センサに関する基礎研究  
 別タイトル: Basic Study on Ultrasonic Sensor for Harvesting Robot of Strawberry  
 著者: 崔, 永杰 / 小林, 太一 / 永田, 雅輝  
 著者別名: CUI, Yongjie / KOBAYASHI, Taichi / NAGATA, Masateru  
 キーワード: イチゴ / 計測差 / 降下距離 / 収穫ロボット / 超音波センサ / Descent distance / Harvesting robot / Strawberry / Ultrasonic sensor  
 発行日: 23-Mar-2005  
 出版者: 宮崎大学農学部

抄録: 本論文では超音波を用いてイチゴの距離計測を行い、果柄を保持・切断して収穫するための最適な摘採ハンドのイチゴは宮崎県木花地区ハウス栽培の"華姫"品種を用いた。超音波センサによる計測距離は実測距離より大きくなる傾向がみられた。形状の影響はAがBよりばらつきが小さいことが確認された。収穫適期度:8分着色,10分着色,形状:A)における計測差の平均値は3.8mmであった。よって、補正值a=3.8mmと決定する条件と摘採ハンドの安全条件を満たす降下距離は20mmと判断された。今回は、超音波センサによるイチゴの補正值を用いることで、イチゴ収穫ロボットにおける摘採ハンドの降下距離の制御に適用できることが確認された。The vertical distance of the strawberry fruits was measured using ultrasonic wave in this distance for the harvesting hand that could cut and hold the fruits through their peduncle sample strawberries (Fragaria x ananassa Duch. Variety "Akihime") were taken from a gre Kibana area. The measured distance using the ultrasonic sensor had indicated consistent true distance. The measurement difference S tended to become smaller as the degree of The effects of shape confirmed A to be smaller than B. Because the mean value of the m the strawberry (at various sizes : M, L, 2L, 3L; degree of ripeness : 80 % and 100 % ; an

## 第三者の評価

### □ 機関リポジトリの位置づけ

- CAT/ILLに次ぐ、大学の知的基盤整備という公共性の高い事業
- ノウハウ・利便性の両面からNIIが音頭をとるのに最適

### □ アンケート結果

- 機関リポジトリの認知度
  - ユーザ： 85%が認知 (n=163)
  - 担当者： ほぼ100%が認知 (n=469)
- 機関リポジトリへの取り組み状況 (n=469)
  - 構築・公開している : 14.6%
  - 予定している : 13.1%
  - 興味を持つ : 58.2%

※出典

「大学共同利用機関が提供する最先端学術情報基盤CSIの利用調査と次世代CSIの企画設計」(最終報告書) 2007.9

## 今後の課題

1. 安定的な財政基盤の確立
  - 大学での自主的な取組・自己資金の調達について
2. 全国的な展開
  - 裾野をどう広げるか
  - 機関リポジトリを持つ機関の数
  - 共同リポジトリ
3. 機関リポジトリの質の向上
  - 活用される機関リポジトリ(コンテンツの質, 利便性向上)
  - 研究開発プロジェクトの継承と見直し
4. 機関リポジトリのコンテンツポリシー
  - 重点コンテンツ
5. 機関リポジトリ運営者コミュニティのあり方
  - 機関リポジトリコミュニティの活性化 (DRF)
  - 学協会等の著作権ポリシーデータベース (SCPJ)
6. eサイエンスとの連携
  - eサイエンスプロジェクトとの協働の可能性

## 来年度以降の基本方針(案)

### □ 基本的な考え方

- 第1期(平成17年度～19年度)の成果と課題を踏まえ、第2期(平成20年度～21年度を想定)を開始
- 機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充とリポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築をめざした委託事業を実施

### □ 第2期のコンセプト

- 自己資金の確保を重視する
- 領域1は重点コンテンツを指定する
- 領域2は波及効果の高いプロジェクトを推進する

## 領域2: 第1期の成果と第2期のコンセプト

### □ 第1期の成果と反省点

- 機関リポジトリコミュニティの活性化(DRF), 国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト(SCPJ)など, 6つの優良事例を中心に, 一定の成果が上がっている。
- 成果は, 事業終了後に改めて検証する予定。
- システム開発関連に各機関内での利用にとどまる事例が多いことは, 第2期へ向けての反省点。更なる波及効果が期待される。

### □ 第2期のコンセプト

- 複数の機関リポジトリの連携などにより, 新たな付加価値を創出するサービスを構築するための事業
- 機関リポジトリの利便性向上に貢献する調査・研究・開発のプロジェクト

# 共生モデル

